

PURE CHABLIS

One grape

One region

One of a kind

プレスリリース - シャブリ/Chablis、2018年3月

Only from France

ヴィンテージ 2017 - 期待に応える品質

シャブリ/Chablis の 2017 年ヴィンテージは、期待通りの品質となりそうだ。果汁はとてもきれいな色で豊かな糖分と酸のバランスも良く、ストラクチュアのしっかりしたワインを予想させる。唯一の懸念は収穫量だ。



© BIVB / A. Ibanez

2017 年ヴィンテージは発芽の段階から早熟だった。収穫も早く、最初の収穫は8月の末から始まった。

冬の終わりの3月末、気温が急上昇し、ぶどう樹は生長を始めた。発芽は早い時期に素早く広がった。

10 日間にわたった4月の霜

ぶどうの芽はその殻からあまりにも早く出てしまったために、春の霜が発生しやすい時期に芽を守るものがなかった。懸念は現実となり、最初の霜が4月17~18日の夜に発生した。ここから10夜連続で霜との戦いが始まり、生産者たちは畑でぶどうの芽と若葉を守るために眠れぬ日々となった。4月は乾燥していたにもかかわらず霜は各所で発生し、大小の被害をもたらした。特に北部の被害が大きく、中でも Maligny/マリニイ、Lignorelles/リニョレル、Ligny-Le-Châtel/リニイール=シャテル、Villy/ヴィリイ、La Chapelle-Vaupelteigne/ラ・シャペル=ヴォペルテーニュのコミューンが大きな被害をこうむった。全体的として、この4月の凍える夜によって産地全体の収穫量の1/3が失われた。

この長い霜の後は、ぶどう樹の生育は問題なく進んだ。5月の気温は例年をわずかに上回る程度だったが、6月は例年を大きく上回った。開花は順調に広がり、ぶどう樹は一貫したリズムで成長した。

夏は煩わしさが戻った。気温は例年並みで7月は降雨量が例年を上回る一方、8月は水不足となった。8月中旬にはボトリティス菌の広がりが懸念された。しかし、結果的に菌は乾き、事なきを得た。収穫直前にはぶどうの果房は健全で、果実の重量は平均を上回っていた。

9月になると、一気に秋が訪れた。ぶどうはゆっくりと成熟を終え、暑すぎたり日差しが強すぎることもなく、雨もほとんど降らず、ぶどうにも収穫人にも理想的な天候だった。

当初、醸造家は収穫用のかごの底にほとんど果汁が残らないのを見て驚き、プレス後により多くの果汁が得られることを期待した。厚い果皮と乾燥した8月によりもたらされた結果と考えられる。その後、9月に状況は改善した。

果汁の品質を目の前にして、業界関係者たちの期待は高い。夏の天候はぶどう成熟を妨げず、しかし爽やかさは保たれた。その結果、果汁は糖分が豊かにありながら、素晴らしい酸も見せている。さらにとてもアロマ豊かだ。

2017年のシャブリ/Chablisの少ない収穫量は、産地全体としては霜の被害を逃れたブルゴーニュ/Bourgogne地区の中では例外といえる。フランス全体としては生産高が歴史的に低く、また欧州レベルでも生産量が少なかったという点では、シャブリもその例に漏れなかった。2017年の春の霜を免れたワイン産地はほとんどなかった。

www.chablis.jp

Responsible Marketing

Communication

BIVB Chablis

T: +33 (0)3 86 42 42 22

E: francoise.roure@bivb.com

Twitter: @PureChablis - #PureChablis

Instagram : vinsdechablis



BOURGOGNES